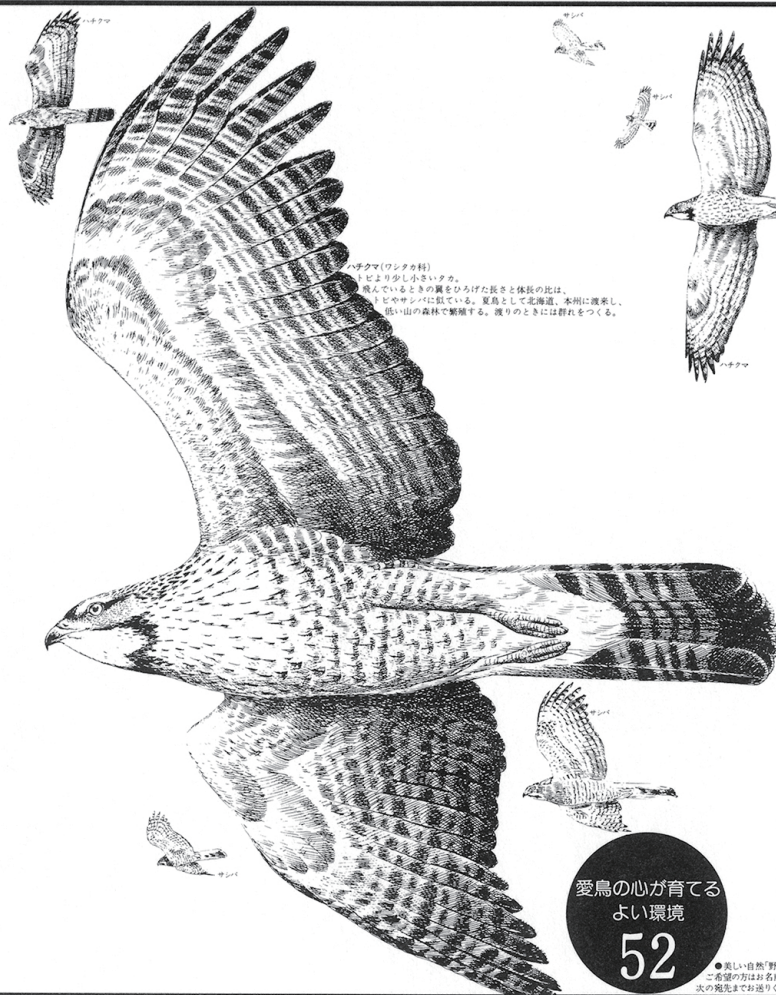


読書の秋に 鳥を読む



愛鳥の心が育てる
よい環境
52

中学生ケンちゃんへの返信

ケンちゃん、お手紙ありがとう。学校の勉強のかたわらの愛鳥保護活動、うれしくもまた、たのしく思います。さて野鳥と保護に関する書物を紹介せよとのことですが、その前に、私たちの考えをちょっとお話しします。

野鳥保護には①野鳥に親しむ②野鳥を知る③野鳥を大切にすること、という3つの活動があると思います。親しむことで野鳥に目向け、知ることで愛情を育て、そしてはじめて野鳥を大切にすることができるのではないのでしょうか。親しむことや知ることなしに「守ろう！大切にしよう！」と叫んでも意味がない。これは、自然保護活動にも言えることです。

野鳥を知るために、だれでもできる活動は2つ。まず自分たちの地域の自然と野鳥を知ること、そして、野鳥と自然のしくみと人間との関わりを勉強することです。この2つはそれぞれ別ではなく、野鳥と自然を知るうえでは当然、人間活動と自然のあり方を勉強しなくてはならないし、いっぽう、本を読みながら野外で観察や見学をしていかなければなりません。書物は、車の両輪の片方のような存在であると考えてください。

野鳥や自然に関する勉強は、「書物から学ばず、自然から学べ(アガシー)」という態度が基本です。書物から学んだことは自然の中へ出て直接たしかめることが大切です。気の合ったグループで息長く続けながら、自分自身を育てるとともに愛鳥の仲間をふやしていく——そんなことにこの本が役立てばいいです。

【鳥を知るために】『鳥類』タイムライフ・ネイチャーライブラリー(普及版)『鳥とはこんなもの』誠文堂新光社(質問に答える形式で大勢の先生方がやさしくまとめたもの。)850円『鳥の世界』黒田長久著・あかね書房680円

【野鳥を見るために】『野鳥を見に』日本鳥類保護連盟『野外観察用鳥類図鑑』日本鳥類保護連盟(下の別欄で紹介)『山野の鳥』『水辺の鳥』日本野鳥の会・各400円『野鳥を見に行きませんか』日本野鳥の会1800円(☎(03)406-7141へお尋ね下さい)。

【野鳥を聞くために】『野鳥をききに』日本鳥類保護連盟・カセットテープ30分・1500円

【野鳥を知るために】『鳥の生活』ティン・バーゲン著・思索社1600円『鳥の行動』J・ス・マーク著・主婦と生活社630円『鳥の博物館』集英社(マンガ)290円『野鳥ガイド』中村登流著・光文社580円『日本の野鳥シリーズ』数内正幸著(イラストレーション)福音館(にわか)2冊に(2)2冊590円950円から『森のひびき』中村登流著・大日本図書

【自然を知るために】『野外観察の手引き』金田平・柴田敏隆・共著・東洋館出版2200円

『四季の森林』沼田真監修・地人書館1200円『動物の科学』小原秀雄著・国土社800円

『自然生物のふし』柴田敏隆著・小学館980円

【保護の関心を深めるために】『野生鳥類の保護』日本鳥類保護連盟1000円『沈黙の春』カースン著・新潮社文庫『自然保護の手引き』全国自然保護連合編・昌平社680円

——追伸。自然保護や野鳥を学ぼううえで、いろいろな情報を知りたかったら、日本鳥類保護連盟の会員になるとよいですよ。『私たちの自然』という月刊誌も出しています。連絡は〒150・渋谷区南平台町8-20日本鳥類保護連盟☎(03)461-0540入会のしおりを送ってください。



財団法人 日本鳥類保護連盟
サントリー株式会社

●この広告は、財団法人日本鳥類保護連盟の指導を得て、サントリー株式会社からシリーズとして制作するものです。

10月の
野鳥メモ

●渡り鳥の通過——キビタキ、サンコウチョウ、シロビタキ、ノゴマなどの渡り鳥が南の国へ渡ります。来るときはあんなに大声を出してはりきっていたのに、ひっそりと旅立つてゆきます。エサ台を準備しておく、旅の途中に寄ってくれることもあります。

●サシ/び、高い空を1羽1羽離れつつ飛びながら渡つてゆきます。毎日の通勤に「渡る」はサシ/びのこと。

●冬鳥のつと——帰る鳥と入る鳥に、ツグミ、シロハラ、カシラダカ、ミヤマオソジロ、シヨツビタキ、アト、マヒワなど。初級記録をぜひ。

●山にいたトリたちもヒヨドリ、モズ、ウグイスなどが里におりてきて、にぎやかに。

●ツルが来た——山口県熊毛町にナベツル、鹿児島県出水市にはナベツルとマナツルが。来月2月ごろまで。

●日本の中野では10-20日ごろが、ヒヨドリ、コノドリ、アマツバメなど小鳥の渡りの最盛期です。

●窓にそなえて、トリたちのオヤツにカキをとっておきましょう。

●まだまだ秋の虫が、往く秋を惜しんで鳴いていますね……

●北海道では10月から飛来です。流れ弾にご注意！